



【小論文】よく選ばれている課題から生徒さんの意見をご紹介します

今回は「きりはら小論文通信 第11号」より、よく選ばれている小論文課題についてご紹介します。

「スマホ依存」

設問

長時間スマホを使い続けてしまう「スマホ依存」の若い世代が増えている一方、自治体や学校が児童生徒のスマホ利用のルールを決めるといった動きも出てきています。スマホ使用にルールを設けることについてどう考えますか。

多くの生徒さんがスマホを持ち、長時間使用している現状があります。その「スマホ依存」を解決するために、ルールは必要なのでしょうか。

以下は2016年に添削を行った生徒さんの実際の答案例です。

生徒さんが書きがちな内容

- ・長時間スマホを使うことは睡眠不足や体の不調の原因になる。また、歩きスマホも危険だ。
- ・LINEでの無視やいじめ、有害サイトへのアクセスなど、スマホ使用によるトラブルが多発している。

ここまで書けるとよい！

- ・SNSで友人と連絡を取れずに不安になることがあったが、学校でルールを決めて生徒全員スマホを使わない時間を作ればそのような不安を抑えることができる。
- ・自分の生活に合ったルールを家族で決めてスマホの使用時間を制限することが「スマホ依存」の防止につながる。

全体的にスマホ使用にルールを設けることに肯定的な生徒さんが多い傾向です。しかし、スマホ依存の問題点を指摘するだけにとどまり、誰がルールを設定するのか、それによってどんな問題が解決できるのかが書かれていないなど、具体性に乏しい論の展開になっている答案も多くあります。

「スマホ依存」は新しい問題であると同時に生徒さんに密接に関係した事柄でもあります。情報化社会においてスマホをどのように使えばよいのかを、生徒さん自身に考えてもらいたい課題です。

※「きりはら小論文通信」は話題のテスト内容のご紹介や、講師からのメッセージなどを掲載、年4回発行しています。当紙でもご紹介していきます。





英文校閲者のひとりごと⑦

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。



The Shinkansen Experience

No matter how many times you have ridden on it, the Shinkansen always remains a special mode of transportation. Even the electric hum of the parked trains on the platform seems special. There is always an air of excitement before you reach the platform. The selection of your ekiben is a matter of prime importance. You can feel the seriousness of travelers as they go through the station's shops looking for their exclusive cold-rice lunch for the day. This air of "specialness" goes on. Have you ever noticed that the cleaning staff bow at the Shinkansen as it approaches the platform? They are paying the utmost respect to the train, or perhaps to the passengers who are fortunate enough to be in it. Once on board, you can relax. Even the recorded English announcements are relaxing—the woman's voice seems to be a strange blend of American, British and Australian English, and she reminds me of the good old Showa days, when the Shinkansen was still a new thing. As you watch the cityscape give way to the rice fields, rivers and mountains of the countryside, you feel that you have seen this a hundred times and wonder about the lives of the people you see. You are just passing through their world on the way to another place, to another memory of another vacation which has just begun or is about to end.



自身が描いた車窓風景

日本語訳

新幹線に乗るということ

今までに何度も乗ったことがあっても、新幹線での旅はいつも特別なものとなります。ホームに停車中の車両から聞こえてくるかすかな電気ノイズさえ、特別なもののように感じます。新幹線ホームに着く前から、胸がわくわくするような雰囲気がいつもあるのです。どの駅弁にするか選ぶことは最重要事項です。旅行者が駅の売店を見て回り、その日に食べる自分好みの弁当を物色している姿から、あなたにもその真剣さが伝わってきます。この「特別さ」の感覚は、さらに続きます。新幹線がホームに近づいてくるときに清掃スタッフが車両に向かっておじぎをすることに、あなたは気づいていたでしょうか。彼らは新幹線に、それともたぶん、幸運にもそれに乗車することのできた乗客に最大限の敬意を払っているのでしょうか。ひとたび乗車すると、くつろいだ気分になれます。録音された英語の車内アナウンスさえも、心を落ち着かせてくれます——その女性の声は、アメリカとイギリスとオーストラリアの英語が奇妙に混ざり合っているようで、新幹線がまだ目新しいものだった古きよき昭和の時代を私に思い起こさせてくれます。都市の景観が田園地帯の水田や川、山へと変わっていくのを眺めていると、あなたはこのような風景をこれまで何度も見てきたような気がして、目に映る人たちはどんな暮らしをしているのだろうと思うことなのでしょう。あなたは、その人たちの世界を通り過ぎているだけなのです。どこか別の場所へと向かう途中で、そして始まったばかりの、あるいはまもなく終わる休暇の思い出とともに。

